

| No | 日付     | 資料     | ページ等 | コメント内容   | コメント対応  | 回答日   | 完了    |
|----|--------|--------|------|--|---|-------|-------|
| 1  | 12月12日 | 概要パワポ  | 21   | バップルフォーマボルトの応力履歴と割れ発生応力線図を記載すること。  | 概要パワポのP21に追記した。   | 1月18日 | 1月18日 |
| 2  | 12月12日 | 概要パワポ  | 21   | バップルフォーマボルト材だけでなく、シンプルチューブ材の割れ発生応力線図を用いた評価結果も示すこと。   | 概要パワポのP21に追記した。   | 1月18日 | 1月18日 |
| 3  | 12月12日 | 補足説明資料 | 9    | グループ2～4のボルト損傷予測本数が管理損傷ボルト数に至るまでの期間の「50年」は暦年かそれとも運転時間か、明記すること。また、「実運転年数」とは何を指しているか、正確に記載すること。 | 補足説明資料P9の記載を見直した。   |       |       |
| 4  | 12月12日 | 補足説明資料 | 1-4, | 運転開始後60年時点での運転時間36.0万時間(41.0EFPY)としているが、中性子照射脆化の評価では、35.4EFPYとしている。差異について説明すること。             | 中性子照射脆化の評価では、40年目の高経年化技術評価以降に第5回監視試験を実施しており、第5回監視試験結果を踏まえた評価を実施するにあたり、運転開始後60年時点までの運転時間についても至近の運転実績を踏まえたものに見直した。<br>一方、照射誘起型応力腐食割れの評価では至近の運転実績を見直した運転開始後60年時点までの運転時間については、40年目の高経年化技術評価で用いた評価条件のものに包絡されることから、40年目の評価結果を流用しているものである。 |       |       |
| 5  | 12月12日 | 補足説明資料 | -    | PLM40とPLM50の評価条件、評価結果等の差異に係る資料と追加すること。   | 補足説明資料の別紙5を追加した。  |       |       |
| 6  | 1月18日  | 概要説明資料 | -    | ボルト損傷評価において、BFBの割れ発生応力線を使用する妥当性について説明すること。   |   |       |       |
| 7  | 1月18日  | 概要説明資料 | -    | 取替後の炉内構造物について、材料劣化の知見拡充のための有効活用について検討すること。   |   |       |       |